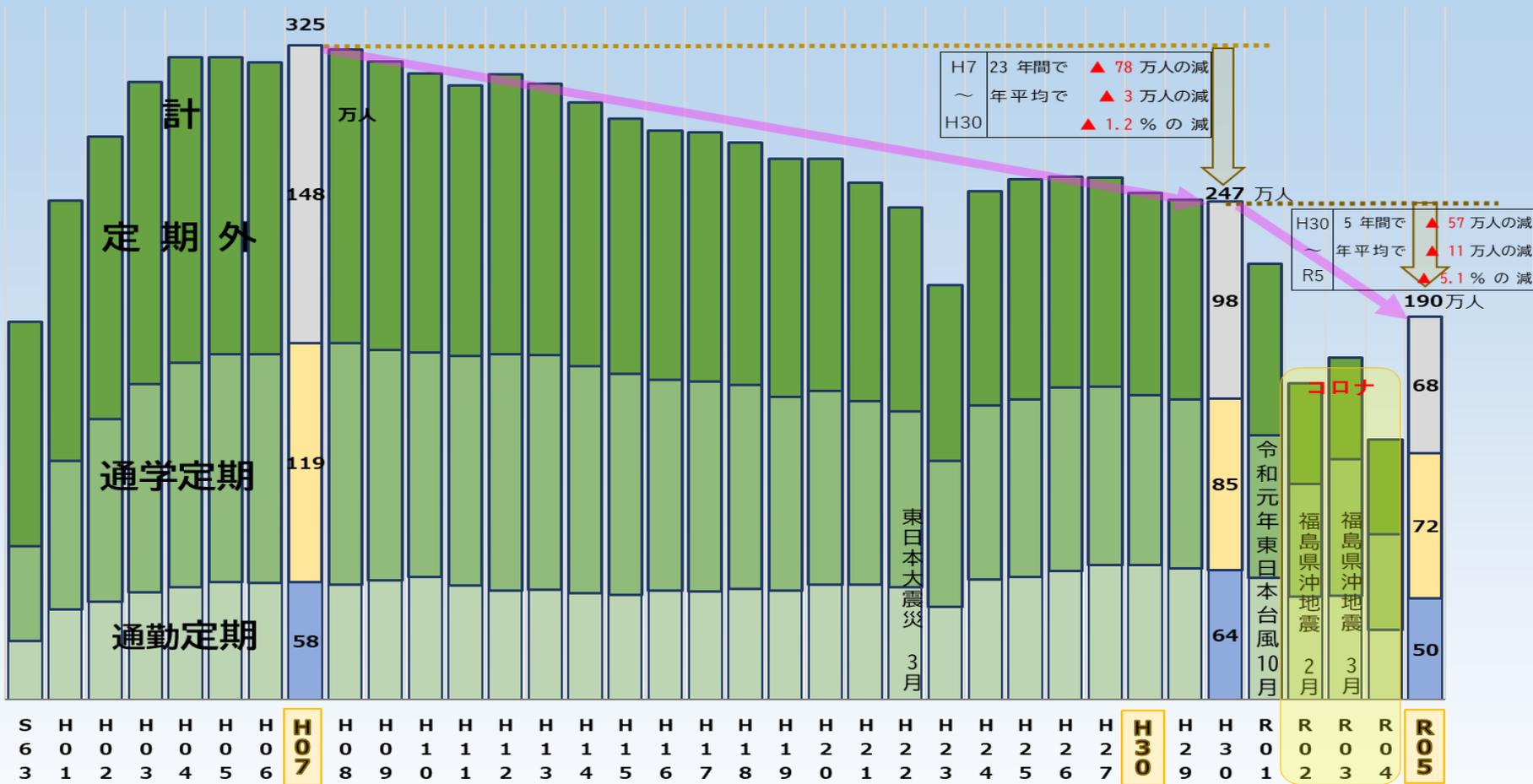


# 阿武隈急行線の経営状況 について



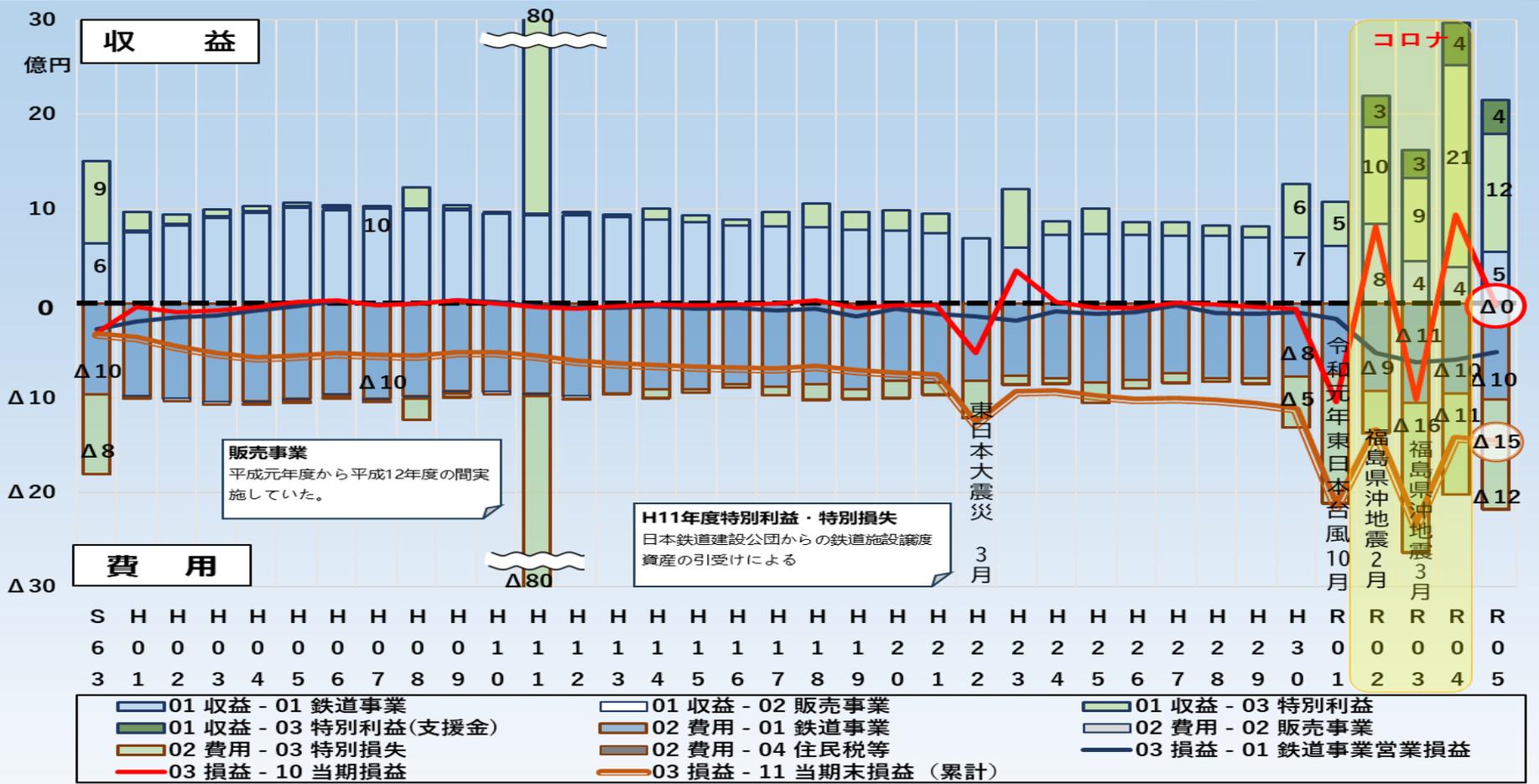
# 輸送人員の推移 (全線開業以降)



- 少子高齢化、車社会の進展等で平成7年度をピークに利用者数が減少。(年平均▲3万人)
- 令和元年度以降、相次ぐ災害や2年以降のコロナ禍で4年度まで激減。
- コロナ明けの5年度は、災害・コロナ禍前の平成30年度と比べ、▲57万人減の190万人まで落ち込んでいる。(年平均▲10万人)



# 収益・費用・当期損益の推移 (全線開業以降)



- **概況**：鉄道事業の収支が令和2年度以降悪化するとともに、老朽化する車両や施設・設備等の更新を要し、国・自治体からの補助金を示す特別利益・特別損失の規模が拡大。(令和5年度補助金総額16億円)
- **特別利益(支援金)**：令和2~4年度、自治体からコロナ減収分の支援を、5年度は、赤字補填として支援を受けた。資本金15億に対し、期末損失の累計は、14億6千万円に達し、このまま推移すると債務超過に至る状況にある。